

わかば会誌

第18号

2022.6

巻頭言

河北郡市医師会に 所属して思うこと

医療法人社団芙蓉会 ニツ屋病院

西村 勇人



皆様、平素より大変お世話になっております。ニツ屋病院の西村です。

石倉先生に依頼していただき、これは貴重な機会と
思い寄稿させていただきました。

私がニツ屋病院に就職したのは2014年4月であり、
早いもので今年で8年目になります。

それまでは愛知県の超急性期病院に在籍していたた
め、当院に来院時には一瞬ギャップを感じたのですが、
慢性期における急性期、亜急性期が多く、急性期病院
で体験したことは全て役に立っています。

医療については何とかなるかもと思いつつ、石川県
には既知の医師が居ない状況でした（よく転勤したも
のだ、と後で思いました）。それでも、医師会に所属
させていただいたことが契機となり、当時医師会長で
あった北谷先生をはじめ、様々な先生に医療のことや
地域などについて教えていただき、大変勉強になりま
した。

2020年4月ですが、皆様もご存じの通り、当院で新
型コロナウイルスのクラスターが発生しました。いか
に感染対策を改善していくか考え実行し、徐々に良い
兆しが見えていたところでした。しかし病院でのクラ
スター発生が少ない状況であったため、かなり注目さ
れることになりました。当院や職員に対する非難の声
も頂くことになりましたが、反面様々な応援の声や支
援物資も頂き、大変救われました。

河北郡市医師会においては、当時の由雄会長、沖野
副会長がゴールデンウィーク中に油野市長と当院を視

察していただいたり（紺谷先生もありがとうございました）、
石川県新型コロナウイルス対策チームに直接
交渉をしていただいたり、当方の健康も心配していただ
いたり、本当に助けられました。先生方が居なければ、
おそらく私も病院も潰れていました。

また、他にも様々な先生やテニス関係の方など多く
の出会いもあり、医師会には感謝しています。ありが
とうございます。

結論的に、当院と私は医師会に救われている、と言っ
ても過言ではないため、当院は医師会や地域に貢献す
る必要があります。しかし、私自身理解できていない
部分が多くあるので、これからも皆様と様々な意見交
換をしながら貢献していきたく思っております。

元来、当院は「看取り」を中心とした療養型病院で
すが、現在は看取りの機能はもちろん、「患者様は来
られた場所に帰っていただく」ことを目指しています。
具体的には施設から入院されたなら施設へ、自宅から
入院されたなら自宅へ戻る、という意味です。2019年
4月には、地域連携室に入退院支援看護師を設置して、
その流れを構築しています。また24時間ではありません
が訪問看護ステーションも立ち上げ、通所リハビリ
テーションも約1時間の短時間ですが、具体的なゴール
を設定した内容で平日の毎日で提供しています。今
後も地域の方々が使いやすい環境を提供し、改善して
いく所存です。気軽にお声掛けください。

これからも何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願
い申し上げます。

金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学講座の教授（講座主任）

熊代 尚記



皆様こんにちは。

河北郡市医師会の先生方にはいつもご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

2022年1月より糖尿病・内分泌内科学講座の教授（講座主任）を仰せつかっております熊代尚記です。私は1999年に山梨医科大学を卒業し、山梨医科大学、東京警察病院で内科全般の研修を、順天堂大学で糖尿病・内分泌の専門研修を受けました。順天堂大学大学院、米国Yale大学へ研究留学の後、東邦大学で9年近く糖尿病・内分泌の診療・教育・研究を指導者として牽引して参りました。診療は、糖尿病・内分泌の垣根無く、両学会の指導医を取得して幅広く指導して参りました。先輩に教わったら後輩に教える屋根瓦式の教育を大事にして組織を大きくして参りました。研究は、脂肪肝と糖尿病を大きなテーマとしつつ、心血管合併症予防、早期治療介入の意義、生活の質の向上、睡眠障害などについて、日常診療に役立つエビデンスの創出を行って参りました。今後は金沢医科大学で、患者さんが安心して幸せに人生を全うできるように、全人的かつ専門性の高い糖尿病・内分泌診療を提供し、地域に根

付いた信頼される大きな糖尿病・内分泌センターを築いて参ります。

そのためにも、地域の先生方との協力は非常に大切です。私は、前職でも地元の医師会の会長先生・学術担当の先生と協力し、内科に限らず地域の先生方とのラウンドテーブル形式の懇話会を立ち上げ、顔の見える紹介・逆紹介を推進して参りました。糖尿病・内分泌疾患は、様々な診療科と関係しており、関係のない科はないと言っても過言ではありません。

2021年12月から金沢医科大学病院は、病院全体をあげて午後の再診予約外来を積極的に推進し、午前の初診外来の混雑緩和に努めております。糖尿病・内分泌内科も、慢性疾患が多く、予約受診がしやすいので、予約の枠組みの見直しを行って受診の効率化を図り、患者さんの満足度向上に全力で取り組んでいます。逆紹介についても、患者さんの希望、通院のしやすさ、往診や訪問看護の必要性等を総合的に判断して、かかりつけ医の皆様へ紹介させていただきますので、よろしくお願い致します。

今後も末永く皆様のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

新入会紹介

ご挨拶



2022年4月より実家の山田耳鼻咽喉科医院へ入職致しました山田健太郎と申します。

河北郡市医師会の先生方にはいつもご高配を賜り、深く御礼申し上げます。

当院は祖父が1963年に津幡町に開院し、1991年に父がその後を引き継ぎました。医者になれ、耳鼻科医になれと言われたことは一度もなかったように記憶していますが、日々患者さんと向き合う祖父や父の背中を見て自然と医学の道、耳鼻咽喉科の道を目指すようになっていました。

山田耳鼻咽喉科医院 山田 健太郎

私自身は2011年に金沢医科大学を卒業、同院で初期研修をし、2013年に同院耳鼻咽喉科教室へ入局させて頂きました。大学では主に鼻の疾患を専門とし、スギやダニのアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法なども担当しておりました。また入局初年度は同院頭頸部甲状腺外科教室が始まった年でもあり、頭頸部領域においても幅広く診療させて頂きました。

大学病院では臨床や研究で慌ただしい毎日でしたが、特にコロナ禍においては外来診療もより一層の緊張感に包まれていました。そうした中、外来診療において実家医院とのやりとりも増えるようになり、徐々に地域医療へ思いを巡らせるようになりました。祖父

金沢医科大学頭頸部外科学（講座主任）

北村 守正



2022年4月1日付けで、辻 裕之教授の後任として頭頸部外科学講座主任を拝命しました北村守正と申します。コロナ禍の2020年9月に本学准教授として着任し、辻 裕之教授の仕事を引き継いで参りました。

私は1995年に京都大学を卒業後、同大学の耳鼻咽喉科学教室に入局致しました。2000年からは京都医療センターにおいて、頭頸部癌に対する遊離再建手術や甲状腺進行癌に対する拡大切除術の草分け的存在である永原國彦先生のもとで厳しい手術トレーニングを受け、研鑽を積んで参りました。ここで頭頸部癌治療の考え方を徹底的にたたきこまれ、それをベースに現在も診療を続けております。



2009年に京都大学へ帰学した後は研究にも取り組み、喉頭・気管の再生研究にて学位を取得しました。約半世紀にわたり世界中で研究されるも実用化できていない人工気管ですが、大森孝一京都大学教授のもと生体内組織再生誘導型の人工気管

を開発に携わり、医師主導治験にて良好な成績を治め、その実用化が目までできています。京都大学を離れてからは当院大学院生とともにがん幹細胞に関する研究を始め、現在も地道に続けています。

小学生の頃は野球、中高時代はテニス、大学では水泳部に所属しておりました。一貫して続けてきたスポーツはなく、「多芸は無芸」といった感じです。現在ではもっぱらジョギングをしており、大きなマラソンに応募して抽選に当たれば参加しています。昨年も金沢マラソンを完走しました。人に言えるようなタイムではありませんが・・・あと登山も好きでときどき山に登りに行きます（本格的な登山ではありませんが・・・）。屋久島の山々が好きで、何度も通い、有名なところはほとんど登りました。昨年は待望の白山に登り、見事な景色に感動いたしました。今年は立山に行ってみようかと思っています。皆様もご存じの通り、当教室は開講後わずか9年であり、教室員もまだまだ若く、発展途上の段階です。講座主任として、この若い力を束ねて、金沢医科大学そして頭頸部外科学の発展に寄与できるよう、そして河北郡市医師会の皆様に『頭頸部がん治療、甲状腺手術は金沢医科大学へ』という信頼を得られるよう最大限努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

が約30年診療して父にバトンタッチし、そこから来年でさらに30年を迎えるなど様々なタイミングが重なり私も次のバトンを引き継ぐことになりました。

この60年で耳鼻咽喉科の診療は大きく様変わりしています。昔は外来で鼻を吸ったり、ネブライザーなどが多く、耳鼻咽喉科外来は処置の連続であったと思います。しかし近年は抗菌薬の進歩やコロナ禍における感染予防で外来処置もぐっと減ってきました。また電子カルテや内視鏡の発達によりリアルタイムで所見を患者さんと共有することも可能となってきました。特に耳鼻科は耳や鼻などサッと覗ける部位なのでそのインパクトは大きなものになります。このような変化に対応するべく当院も新たな気持ちで前進していきたいと考えております。これから新しい医療機器や院内リ

フォームなど予定しており、日常診療や地域の患者様の利便性向上をはかり、皆様のお役に立てるようになれば幸いです。

プライベートでは三児の父（5歳+1歳双子）として日々奮闘中です。また大学時代は軽音楽部でドラムを担当していました。ここ数年はめっきり楽器を触る機会もなくなってしまいましたが、いつか子どもたちと演奏できたらなと思っております。

とりとめの話になってしまい恐縮ですが、これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新入会紹介

ご挨拶

石倉クリニック 石倉 祐貴



皆様初めまして。2022年4月から石倉クリニックに勤めることとなりました石倉祐貴と申します。苗字から分かる様に院長の次男坊でございます。私は小学生からずっと津幡で育ってまいりました。小学生の時は緑が丘から野山団地の坂を下って太白台小学校までの山をまた登って。中学生の時は小学校より遠い津幡中学まで自転車で通い。高校は中学より遥かに遠い泉が丘高校まで朝7時前の電車とバスを乗り継いで通い。今思えば勉強より何より通学が一番大変だったと思います。その反動か今の家はクリニックから徒歩圏内に建てました。それでも遠く感じてしまうのはなぜなのでしょうね。

大学は金沢医科大学を卒業し同皮膚科に入局しました。入局当時の望月前教授と2021年に新しく赴任された清水教授には大変お世話になりました。医科大では一般的な皮膚科診療から専門的な分野までたくさん勉強させていただき、皮膚専門医試験にも無事合格することができました。アレルギー専門医試験も本来であれば受験できたのですが、コロナの影響で試験自体

が延期に延期され肩透かしを食らっております。今年は開催されるそうですがどうなるやら…。ちなみに私の専門はアトピー性皮膚炎やアレルギー性皮膚疾患、皮膚外科です。お困りのことや患者がいれば是非お気軽にご相談ください。

4月からは地元の一クリニック勤務ということで、これからはより一層地域の皆様のお力になればと思います。医師会の先生方には今後とも御指導御鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

新入会紹介

自己紹介

まきの皮ふ科 牧野 智



皆様はじめまして。2022年5月10日に津幡町に開業しました、「まきの皮ふ科」の牧野智と申します。2022年4月から河北郡市医師会に入会させていただきました。今回、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は志賀町の出身で、子供の頃からアトピー性皮膚炎で皮膚科に行くことが度々ありました。その頃出会った医師に感銘を受け、町のお医者さんになりたいと思うようになりました。しかし、高校の学力で医学部合格は難しく、一旦は医師になるのを諦め、得意な物理を活かそうと金沢大学理学部物理学科に入学しました。大学生の頃はひたすらアルバイトをし、勉強は今一つでしたが、研究で扱ったフラレンというサッ

カーボール構造をした炭素60分子は、現在のナノテクノロジーの基礎となっており、この研究に携われたことを誇りに思っております。修士を卒業した私は、就職氷河期で研究職の求人は全くなく、研究でコンピューターを使っていたこともあり横浜市にあるコンピューターエンジニアの会社に就職しました。仕事は銀行業務のソフトウェアを作ることで、職場は東京丸の内にある銀行の本社でした。当時は2000年問題で、ソフトウェアを修正しなければ銀行システムが止まってしまうという状況で、システムを一斉に修正しており、業界は人手が不足し厳しい環境でした。朝、1時間半かけて満員電車で職場に向かい、仕事が終わるのは外が暗くなってからで、電車で1時間半かけてア

ご挨拶

なぎさこどもクリニック 中田 裕也



河北郡市医師会の先生方、はじめまして。令和4年6月1日よりかほく市松浜にて開業させていただきます中田裕也と申します。

私は羽咋市の生まれで、2006年に富山大学を卒業しました。富山大学附属病院での2年の初期研修を修了後、2008年より石川県立中央病院小児内科久保実先生の元で小児科医、新生児科医として長年勤務させて頂いておりました。周産期専門医（新生児）として特に新生児の集中治療に長く携わって参りました。

新生児集中治療室（NICU）は、総合病院の中でも産科・小児科・小児外科以外の他科の先生方にとって比較的足を運ぶ機会が少ない場所なため、どのようなことが行われているのかあまりご存じない方もいらっしゃるかも知れません。NICUでは主に早産で出生されたお子さんや、分娩時の異常で治療が必要となるお子さん、出生時より治療を要する先天性の疾患をお持ちのお子さんなどの全身管理を行っています。早産の診療にも在胎22週から36週まで非常に幅がありますが、一般に在胎期間が短く出生体重が小さいほど呼吸

の未熟性が強く、長期の人工呼吸管理が必要であったり、経口栄養が困難なために中心静脈栄養や経管栄養療法などが長期に必要となります。対象がとにかく小さいため、何をするにも細かな処置となります。最近では国内において体重200g台のお子さんの生存退院も報告されるようになり、石川県立中央病院でも体重300g台で出生したお子さんの生存退院を経験いたしました。生まれてすぐにNICUでの治療を必要としたお子さん達は、NICUを退院した後も長期に渡って通院が必要なことが多く、これからは地域のかかりつけ医として、そのような患者さんのお役にも立ちたいと考えております。初心を忘れることなく、日々の努力をかかさず地域の医療に貢献させていただく決意でございます。

この度は河北郡市医師会の末席に名を連ねさせていただきましたことを感謝申し上げますと共に、今後とも御指導賜りますようお願い申し上げます。

パートに戻り、急いで夕食（夜食？）をとり風呂に入て寝るという生活でした。この生活が2年続き、のんびりとした石川での生活が懐かしくなってきました。その時、いつものように電車に乗っているときでした。目の前に座っている人が新聞を読んでおり、偶然能登の医師不足の記事が目飛び込んできたのです。神の御告げ（？）かと思いましたが、たまたま本屋で読んだ大学受験のハウツー本で、私でも医学部合格できるのではないかと思います、会社を辞め再受験することに決めました。

2年目でなんとか福井医科大学に合格することができ、卒業後は金沢大学皮膚科に入局しました。当時の教授である竹原和彦先生は、アトピー性皮膚炎の大家でテレビ番組に出演されていました。私はアトピー性皮膚炎を勉強するつもりで入局しましたが、竹原先生は強皮症の大家でもあったため、強皮症だけでなく皮膚筋炎などの膠原病の患者様も多く診る機会を得ました。膠原病を勉強して良かったと思うのは、皮膚筋炎では、発症後急速に病状が進行し命を落とす病型があ

り、皮膚科医は皮膚所見だけで早期発見に貢献できる点でした。

その後は、富山県立中央病院、舞鶴共済病院、金沢大学、富山赤十字病院、公立能登総合病院、金沢大学と市中病院と大学病院を行ったり来たりしていましたが、5年前の結婚を機に津幡町に住みはじめました。そして、医師として10年以上経過し、そろそろ本来の目標であった、地域に根ざした町のお医者さんになろうと思い、一念発起し独立することにしました。もちろん、地域の方に町のお医者さんと認められないことには目標を達成したことにはならないと思っております。一日でも早く認めて頂けるよう日々精進してまいります。

河北郡市医師会の先生方には開業前から暖かく迎えて頂き、アドバイスも頂き、とても感謝しております。まだまだ若輩ものですが、今後もよろしくお願いいたします。

河北都市医師会の主な行事

(令和4年1月～令和4年の6月末まで)

1. 理事会・総会

令和4年1月15日(土) 令和3年度新年総会
「シグナス」
令和4年1月19日(水) 第10回理事会(WEB)
令和4年2月16日(水) 第11回理事会(WEB)
令和4年3月16日(水) 第12回理事会(WEB)

令和4年4月20日(水) 第1回理事会(WEB)
令和4年5月18日(水) 第2回理事会(WEB)
令和4年6月4日(土) 令和4年度定時総会
「ホテル金沢」
令和4年6月15日(水) 第3回理事会(WEB)

2. 学術研修会

河北都市医師会学術講習会

令和4年4月13日(水)
演題1:「糖尿病網膜症ー進展抑制の最前線と療
養指導の注意点ー」
講師:金沢医科大学 眼科学講座 特任教授
久保 江理 先生
演題2:「病診連携を活かして糖尿病の合併症を
予防しよう!」
講師:金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学
教授
熊代 尚記 先生

令和4年5月11日(水)
演題:「夜間頻尿のしくみと対処」
講師:済生会金沢病院 泌尿器科 医長
石井 健夫 先生

令和4年5月27日(金)
演題:「高齢化により変化した便秘診療ー医師と
患者が納得する治療を目指してー」
講師:横浜市立大学大学院 医学研究科肝胆膵消
化器病学教室 主任教授
中島 淳 先生

令和4年6月8日(水)
演題:「心不全専門医が考える心腎貧血関連」
講師:富山大学附属病院 第二内科 講師
今村 輝彦 先生

令和4年6月22日(水)
演題:「貴重な症例に学ぶー消化器日常診療の
ピットフォール」
講師:公立 河北中央病院 院長
刈崎 宇一郎 先生

編集後記